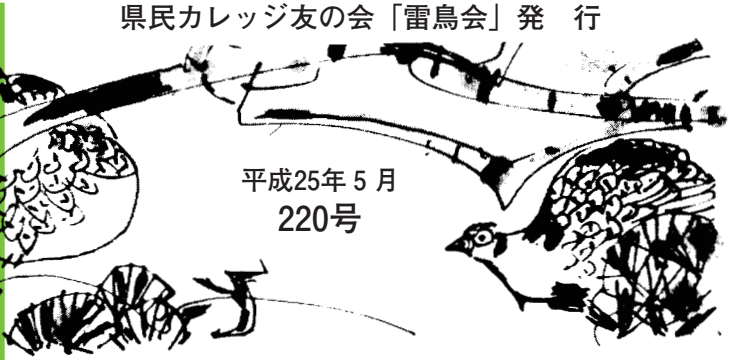


平成25年5月
220号

事務局 〒930-0096 富山市舟橋北町7番1号
富山県教育文化会館内 電話(076)441-8401



表紙絵 齊藤清策
題字 中田大智



究極の一雫

俳人 黛 まどか

「体験なくして感動なし。感動なくして学習なし」。つい先日地方の食堂で目にした言葉だ。誰が言ったのか、確かにその通りだ。何でもバーチャルな昨今。教科書までデジタル化すると聞いている。その方が効率が良いのだそう。でも一見無駄が多いと思われる体験の中にこそ、実は生きていく上で身に付けなくてはいけない重要なものが詰まっているのではないだろうか。

四十代の半ばに出会い、学び始めたものがある。煎茶道だ。初めて煎茶道の煎茶を飲んだ時の感動は忘れられない。旨味が凝縮された茶の雫は、舌頭から沁み入るように全身に広がり、身体の中を清風が駆け抜けた。それまでのお茶の概念をひっくり返し、世界が一変するような体験だった。以来これこれ七年前煎茶道の稽古を続けている。

私が習っている小川流煎茶道では、一碗の煎茶の量は八滴程度が理想とされている。八滴となると、飲み残し?と見紛うほど少量だが、しかしそのわずかなお茶を淹れるために用いる葉の量は、急須(茶瓶)の底に盛り上がる程使う。お点前の基本はあるが、その日の気温や湿度によって、湯の温度、茶葉の量などきめ細やかに加減する。点前の中で茶碗を濯いだり、茶托を拭いたりす



るのは、衛生上の目的の他に、茶が出るまでの時間を調整したりするためだ。すべての所作に意味があり、白露のごとき究極の煎茶を淹れるために点前は完成されている。そのため理論や技術、長年の経験や知恵などはすべて裏側に隠され、差し出された八滴のお茶はただただ甘露の雫となつて、私たちの心と身体を潤していく。そしていつまでも口中に余韻として漂う。

俳句もまさに感動の雫である。十七音節に絞り込むために、切り捨てられた風景や思い、言の葉の数々がある。それらは決して文字として俳句には表れないが、句の裏側つまり余白に隠されている。わずかに八滴のお茶を淹れるために使われる山のような茶葉のごとくに、夥しい想念と言葉の犠牲の上に一句は完成する。そしていつまでも

読後に余情として漂う。……とどちらも理屈ではわかってはいるのだが、実際に美味しいお茶を淹れ、佳句を作るのは難しい。体験が重要な所以であろう。どちらも納得のいく究極の一雫に行きつくまでには、まだまだ修業が必要だ。だからこそ止められない。右を見ても左を見ても「成長」「成長」と喧しい世の中、「成熟」の一雫に半生をかける変わり者がいてもいいと思うのである。

平成25年度
雷鳥会総会
 平成25年4月22日(月)

記念講演

演題 「近年出土の仮名墨書

土器について」

講師 富山大学人文学部
 教授 鈴木 景二氏

◇ 総 会

開会の挨拶で稲葉實会長は、最近海外へ旅行する機会が多々あり、出会った人々から「日本はどんな国ですか」「あなたの宗教は」などと問われ、国際化という時代が俄かに実感として感じられるようになった。生涯学習の視点からも国やふるさとへの関心や学びをより深めたいものだと語られた。

県民生涯学習カレッジ荒井克博学長からは、来年40周年を迎える雷鳥会に対して、富山学の中核としてますます発展するよう激励の言葉をいただいた。この4月、雄峰高校の移転に伴って同施設に県民カレッジ富山地区センターが併設され、ようやく



て新しいふるさと文学啓発事業を行う予定であり、雷鳥会の参加・協力を県民カレッジからお願ひされた。

◇ 記念講演 (要旨)

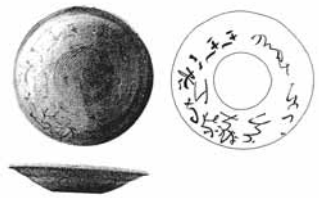
平仮名の成立の歴史と現存資料についての話である。最も古い文書資料として平仮名の原型といわれるものは、「正倉院の万葉仮名文書」(762年以前)である。一字一音式に書かれており、



当時の中国の草体と共通する。この後、藤原定家の肉筆といわれている「土佐日記」の写本(国宝)の平仮名になるまでの道筋を資料に基づいて話された。平仮名成立過程を知るうえで最近注目されつつあるのは

四地区センターがそろったことになり。また、県は本年度「高志の国文学館」と協力し

出土文字資料である。富山県射水市(当時は小杉町)下条赤田I遺跡から出土した「草仮名墨書土器」が研究の先駆けとなった。2002年に出土した口径131ミリの、器高24ミリの扁平な土器で、全く割れていない。土器の裏に墨書された佐佐川幾(ささはら つきは杯)という



文字から、この土器は酒杯と考えてよい。この文字は9世紀後半から10世紀初めの草仮名でありこれまで知られていない草仮名資料の中でも早い時期のものとして位置づけられる。また連綿が現れている点でも、仮名文表記の歴史を考える上で重要な資料である。さらに奈波と読める文字が見える。当時難波津歌が手習いに使われたことが分かっている。書き様から見て、和歌の試し書きか習書らしい。そして硯や大量の杯なども一緒に出土していることから、曲水の宴の場であった可能性がある。驚くべきことは、緑釉陶器が13点も出てきていることである。当時の最高級品だという。これは、9世紀後半

にはすでに中級貴族たちが受領国司として地方へ下り京の文化を伝えていたことを示す。少し遅れて2011年に、京都市中京区西の京から仮名文字が記された墨書土器が多数出土した。これは、平安時代前期に右大臣をつとめた藤原良相の邸宅跡地と想定されていたが「三条院釣殿高杯」と墨書した高杯が見つかり、そのことが確実となった。この土器は、9世紀後半から10世紀初めに属するので、平安京では最古の仮名文字といえる。良相は文学に造詣が深く、また信仰心の篤い人物だったことも分かっている。当時の都で名を知れた貴族の邸内からまとまった墨書土器が出土しているという事は、仮名文字の発生と展開に関する非常に重要な考古資料といえる。

プリントの資料に加えて、パソコンの映像を使つての説明はわかりやすく、先生の情熱が伝わってくる一時間半であった。(遠藤 記)

平成二十五年度
雷鳥会事業計画

◇ 会 議

- 総会(年一回)・理事会(二回)
- 企画委員会(三回)
- 運営委員会(四回)・部会(二十回)

◇ 事 業

- 企業訪問六月十九日(水)
- IZAKA石崎産業滑川工場・OAI工業・ウーケ・アサヒ飲料 北陸工場
- 雷鳥セミナー一泊二日 七月二十三日(火)～二十四日(水) 新潟方面
- 「越後一の「豪農の館」伊藤家住宅を訪ねる」
- 日帰りセミナー八月二十九日(木) 岐阜方面
- 岐阜県の隠れた名所 「日本人の良心・杉原千畝」
- 県民カレッジ連携講座

― 21世紀講座 ―

- 演題 「万葉世紀の歴史学」
- 講師 金沢星稜大学名誉教授 藤井 一二氏
- 第一回 十月七日(月)
- 第二回 十月二十八日(月)
- 第三回 十一月八日(金)
- 学遊祭十月五日(土)
- 展示・その他

◇ 広 報

- ・トーク&トーク一月予定
- 講師 松井和子氏
- ・会報「雷鳥」年間五回発行

お知らせ 誘いあってひとときを楽しんでみませんか!!

☆企業訪問

- 1 期 日 平成25年 6月19日(水)
 2 訪問先 アイザック石崎産業(株)、オーアイ工業(株)、(株)ウーケ、アサヒ飲料(株)北陸工場
 3 日 程

7:00出発 高岡駅南口	8:00発 富山駅北口	9:10発 新川文化ホール	9:30~10:40 アイザック石崎産業(株)滑川工場	11:00~12:10 オーアイ工業(株)
12:30~13:20 道の駅「蟹気楼」(昼食)	13:50~15:00 (株)ウーケ	15:20~16:10 アサヒ飲料(株)北陸工場	16:30頃 新川文化ホール	17:30頃 富山駅北口
18:25頃着 高岡駅南口				

- 4 募集人員及び参加費 40名 4,000円(当日集金)
 5 申込み開始日 5月23日(水)から(先着順)
 6 申込先 雷鳥会事務局 ☎ 076-441-8401 FAX 076-441-6157 (火曜日休所)

☆雷鳥セミナー 越後一の「豪農の館」伊藤家住宅を訪ねる

- 1 期 日 平成25年 7月23日(火)~24日(水)
 2 日 程

6:00出発 砺波総合庁舎	6:30発 高岡駅南口	7:30発 富山駅北口	8:25発 黒部IC	8:30発 入善IC	11:20 新潟西IC
11:30~12:30 新潟ふるさと村(昼食)	12:50~13:30 新津記念館	13:40~14:20 朱鷺メッセ展望室	15:00~16:00 豪農の館北方文化博物館(旧伊藤家)		
16:40頃着 五頭温泉郷・村杉温泉(泊)	※宿泊ホテル 「風雅の宿 長生館」(新潟県阿賀市村杉温泉 ☎ 0250-66-2111)				
8:40発 五頭温泉郷・村杉温泉	9:00~9:30 安田ヨーグルト	9:45 安田IC	10:25 三条燕IC	11:00~11:40 越後一の宮彦神社(宝物館)	
12:00~12:50 弥彦山展望レストラン	13:00発 弥彦山山頂駐車場	13:25~14:00 トリックアートミュージアム(sowa美術館)		14:50~15:40 長岡郷土史料館	
16:00 長岡南越路IC	17:00~17:15 名立谷浜SA	18:00頃 入善IC	18:05頃 黒部IC	19:10頃 富山駅北口	19:55頃 高岡駅南口
20:20頃着 砺波総合庁舎					

- 3 募集人員及び参加費 30名 32,000円(当日集金)
 4 申込受付 6月24日(月)から雷鳥会事務局へ(先着順・火曜日休所)

☆平成25年度 県民カレッジ夏季講座のお知らせ ☆

富山会場(富山県教育文化会館)【開場は開始時刻の30分前です。】

日時	講師	演題	講師紹介等
7月12日(金) 14:30~16:00	内閣官房参与 谷内 正太郎 氏	日本外交の課題と展望	金沢市生まれの富山育ち 東京大学大学院修了後外務省入省 外務事務次官就任 現在内閣官房参与

受講申込受付 6月3日(月)から(先着順)600名

申込方法 〈窓口受付〉県民カレッジ本部 他富山・高岡・新川・砺波地区センター
 〈郵送受付〉県民カレッジ本部のみ(火曜日休所)

問合せ先 県民カレッジ本部(県教育文化会館内) 〒930-0096 富山市舟橋北町7-1 ☎ 076-441-8401

- ※ なお、雷鳥会員には夏季講座受講票引換券を同封しました。受講票と引き換えてください。
 詳細は、5月下旬発行の「県民カレッジ夏季講座受付受講者募集要項」をご覧ください。